

平成22年度第2回行政監査結果報告書（概要）

第1 監査実施概要

I 監査テーマ（P1）

「区民のスポーツと健康増進事業について」

II 監査テーマ選定の趣旨（P1）

区は、区民一人ひとりが健康で充実した日々を過ごすことができるように、各種スポーツ事業に取り組んでいる。昨今、子どもたちの体力低下が指摘されており、また、成人の生活習慣病を予防する上でも、体力の向上及び健康を増進するための事業を積極的に実施する必要がある。

そこで、平成22年度第2回行政監査では、区民のスポーツと健康増進事業について、事業は計画的・効果的に行われているか、事業にかかる経費は経済的・効率的に使われているか等の観点から検証を行った。

III 監査の着眼点（P1）

- 1 事業は計画的・効果的に行われているか。
- 2 事業にかかる経費は経済的・効率的に使われているか。

なお、平成19年度に行政監査を実施した健康づくりに関する事業は、対象から除外した。

IV 監査対象（P1）

| | |
|----------|-------------------|
| 区民文化部 | スポーツ振興課 |
| 健康生きがい部 | 健康推進課、健康福祉センター（5） |
| 福祉部 | 障がい者福祉課 |
| 教育委員会事務局 | 生涯学習課、学校地域連携担当課 |

V 監査実施期間（P2）

平成22年7月30日（金）～平成22年12月22日（水）

第2 監査結果

I 現況と問題点（P3）

- 1 スポーツ振興に関する概況
- 2 スポーツ振興事業に関する現況
 - （1）スポーツ振興課
 - （2）障がい者福祉課
 - （3）生涯学習課
 - （4）学校地域連携担当課
- 3 健康増進に関する概況
- 4 健康増進事業に関する現況
 - （1）健康推進課
 - （2）健康福祉センター

II 検討・改善を求める事項（P45）

着眼点1 事業は計画的・効果的に行われているか。

1 区民体育大会に対する意見・要望等の把握（P14）

参加者にアンケートを行うなどして意見・要望を把握し、区民体育大会の内容を充実、発展させ一層区民に支持される区民体育大会となるよう取り図られたい。

2 高齢者スポーツ事業の拡大（P19）

高齢者スポーツ大学とシニアスポーツ教室は、類似の事業であり交互に隔年で実施しているが、高齢者のニーズに応え、参加者の増加を図るため、両事業を一本化するなど整理して実施することが望まれる。

3 学校開放の自主管理（P30）

学校開放が事前の団体登録を前提にしている制度であることから、事前登録時に代表者等と直接面談の上、より一層当事者の協力を求め、自主管理が責任を持って行われるよう強く指導されたい。

4 健康力アップ事業、健康教育事業の参加者数の増加（P41）（P43）

(1) 健康力アップ事業は、新規参加者が少ないことが課題となっている。事業の見直しを図るなど、今後のあり方について検討されたい。

(2) 健康教育事業における講座の名称や副題を興味を持ちやすいものにするなどして、周知を徹底し参加者数の増加に努められたい。

着眼点2 事業にかかる経費は経済的・効率的に使われているか。

1 東京・荒川市民マラソン大会の財政状況の公表等（P17）

(1) マラソン大会の収入・支出について参加者をはじめ区民に対して情報開示し、より一層透明性を高められたい。

(2) 平成21年度のマラソン大会は、悪天候のため中止となったが、中止となった場合、各企業等からの協賛金の取り扱い等が明確にされていなかった。これらの事項をあらかじめ決定しておき、今後のマラソン大会に活かされたい。

2 スポーツ振興事業と青少年健全育成事業の見直し（P26）

生涯学習課で所管する事業はレクリエーションの要素が強く、スポーツ振興課で所管する事業は競技性が高いものとなっており、性格は異なっているものの、競技種目について重複を避けられるように、事業の見直しを図られたい。

Ⅲ 総括意見（P47）

○ スポーツとの係わりを踏まえた健康維持の重要性について

区民が生涯にわたっていきいきと幸せに暮らすためには、健康維持・増進が最も重要である。

平成 22 年度から実施した、健康福祉センターにおける 35 歳限定健康診査では、定員を大きく上回る申し込みがあったことから、区民の健康への関心の高さが窺える。

区は、こうした機会を捉え、スポーツと健康が強く係わっていることを踏まえて、今後も区民に対して必要な知識・情報を積極的に発信されたい。

特に、健康教育事業が区民にとって参加しやすいものとなるよう、工夫を重ね、成果が挙がるよう努められたい。

さらに、既存の子育て支援事業や高齢者向け事業などにもこれらの視点を取り入れる必要がある。

○ 区民が参加しやすいスポーツ環境の整備について

監査の結果、区民のスポーツや体力づくりへの関心の高さが、各事業の参加率に結びついているとは言い難い状況にあった。

その要因として施設内容等の問題と、スポーツを始めるに際しての動機付けがないといった問題がある。

ハード面においては、体育施設を、より一層親しまれるスポーツ拠点となるよう、整備充実されたい。ソフト面においては、例えば医療機関、医療・健康関連機器を製造する企業が多いといった区の特性を活かし、これらの企業とタイアップして魅力的な健康増進事業を展開し、スポーツに親しむ機会を多く設けることも一つの方法である。

また、体育指導委員をはじめとする地域のスポーツリーダーが、活躍できる場を設定することを通じて、区民が身近に楽しめるスポーツの普及を実現し、ひいては区民の健康増進に寄与するよう望むところである。

○ スポーツと健康を結び付けるための関係各課の連携協力について

少子高齢化の進展により、区民の健康意識は単なる運動能力の増強だけではなく、基礎体力の向上や生活習慣病の予防等にも向けられている。

高齢者においては、スポーツ活動の場は生きがいつくりの場ともなっており、高齢者スポーツの一層の充実が求められている。

区は、こうしたスポーツ需要を把握し、誰もが楽しみながら健康増進を図ることができるスポーツ振興事業を計画されたい。

例えば、スポーツ振興事業を健康福祉センターで実施し、健康力アップ事業を体育施設で開催するなどして、現在区が推進する健康、教育、生涯学習などの施策の提携・調和を図ることも必要である。

スポーツの概念を幅広く捉え、各部・各関係機関と密接に連携し、スポーツ振興を一層図られたい。

スポーツ活動は、健康でありたいと願う人間の本質的な行動であるとともに青少年の健全育成や高齢者の生きがいつくりなどに深く係わっている。健康、体力づくりの継続的な実践は、区民の健康にとって極めて大切なものであり、ひいては介護・医療費等の節減にも繋がっていく可能性があると考えられる。

区民のスポーツと健康増進の効果的な実践を区が十分支え、これによって健康で心豊かな地域社会が形成されることを期待する。